



TITLE:

横山俊夫教授略歴・著作目録

AUTHOR(S):

CITATION:

横山俊夫教授略歴・著作目録. 人文學報 2013, 103: 169-197

ISSUE DATE:

2013-03-25

URL:

<https://doi.org/10.14989/189478>

RIGHT:

横山俊夫教授 略歴・著作目録

I 略 歴

年	月	
1947	・ 11	京都市に生まれる
1966	・ 3	京都府立洛北高等学校卒業
1966	・ 4	京都大学法学部入学
1970	・ 3	同 学部卒業
1970	・ 4	京都大学大学院法学研究科政治学専攻修士課程入学
1972	・ 3	同 課程修了
1972	・ 4	京都大学助手（人文科学研究所・日本部—1981・3）
1976	・ 12	ブリティッシュ・カウンシル奨学賞
1978	・ 11	オックスフォード大学哲学博士（D. Phil.）候補
1981	・ 4	京都大学助教授（人文科学研究所・日本部—1998・3）
1983	・ 3	オックスフォード大学哲学博士（D. Phil.）
1993	・ 6	チュービンゲン大学エルヴィン・フォン・ベルツ記念客員教授
1993	・ 10	情報処理学会平成5年度研究賞
1998	・ 4	京都大学教授（人文科学研究所・日本部—2012・3）
1999	・ 10	オックスフォード大学ペンブローック学寮客員講師（—1999・12）
2002	・ 4	京都大学大学院地球環境学堂教授（両任—2011・3）
2002	・ 7	同 大学院三才学林長（併任—2011・3）
2005	・ 4	京都大学副学長（併任—2008・9）
2005	・ 4	京都大学国際交流推進機構長（併任—2009・3）
2008	・ 11	京都大学副理事（併任—2009・3）
2012	・ 3	京都大学を定年により退職
2012	・ 4	京都大学名誉教授

II 著 作 目 録

A 著書および編著（単著・編著・共編著）

- 1 『京都大学人文科学研究所蔵 日本関係欧文図書 総覧
—1950年以前刊行分—』京都大学人文科学研究所
調査報告，第34号 京都大学人文科学研究所 1986・3
(137pp.)

- 2 *Japan in the Victorian Mind: a study of stereotyped images of a nation, 1850-80.*
(St Antony's/Macmillan series) London: Macmillan Press 1987・5
(xxiii + 233pp.)
transferred to digital
printing by Palgrave
Publishers, 2001
- 3 『一八、一九世紀節用集の政治社会学的研究』
文部省科学研究費補助金成果報告書(横山俊夫代表,
編著)昭和59-60年度一般研究(B),
課題番号59450059 京都大学人文科学研究所 1988・8
(86pp.)
- 4 『安定社会における人生の諸相—老人と子供—』 京都ゼミナールハウス 1989・10
(藤井譲治と共編) (183pp.)
- 5 『安定社会における人生の諸相—仕事と余暇—』 京都ゼミナールハウス 1991・3
(藤井譲治と共編) (201pp.)
- 6 『視覚の一九世紀—人間・技術・文明—』 思文閣出版 (435pp.) 1992・6
(編著, 京都大学人文科学研究所共同研究報告)
- 7 『安定社会における人生の諸相—年中行事—』 京都ゼミナールハウス 1992・6
(藤井譲治と共編) (241pp.)
- 8 『貝原益軒—天地和楽の文明学—』 平凡社 (388pp.) 1995・12
(編著, 京都大学人文科学研究所共同研究報告)
- 9 『安定社会の総合研究—ものをつくる・つかう—』 京都ゼミナールハウス 1996・6
(川那部浩哉ほかと共編) (205pp.)
- 10 『安定社会の総合研究—ことがおこる・つづく／なか
だちをめぐって—』(川那部浩哉ほかと共編) 京都ゼミナールハウス 1997・6
(181pp.)
- 11 『日用百科型節用集の使われかた—地小口手沢相の電
算画像処理による使用類型析出の試み—』 京都大学人文科学研究所 1998・5
(杉田繁治, 小島三弘と共著) 京都大学人文科学研
究所調査報告 38 (127pp.)
- 12 『新発見事物への名づけをめぐる学内共同のこころみ』 京都大学人文科学研究所 1998・6
(山本有造代表, 小林博行と共編) (73pp.)
- 13 『安定社会の総合研究—ことがゆらぐ・もどる／なか
だちをめぐって—』(川那部浩哉ほかと共編) 京都ゼミナールハウス 1998・10
(193pp.)
- 14 『二十一世紀の花鳥風月—熱き風流を語る—』 中央公論社 (201pp.) 1998・12
(松井孝典と共編)
- 15 『久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する
総合研究』文部省科学研究費成果報告書 京都大学人文科学研究所 1999・3
(横山俊夫代表, 都築晶子と共編) 平成8-10年度基
盤研究(A)(1), 課題番号08309006 (162pp.)
- 16 『言語力の諸相—試行的共同研究報告—』 京都大学人文科学研究所 2000・12
(小林博行と共編) (126pp.)
- 17 『安定社会の総合研究—安定社会をみる・かたる／こ
とばをめぐって—』(川那部浩哉ほかと共編) 京都ゼミナールハウス 2000・3
(154pp.)
- 18 『人文学の新時代—現代自然科学との対話をもとめて—』 京都大学人文科学研究所 2000・3
(小林博行と共編) (189pp.)
- 19 *A Prelude Symposium for Future Seoul/Kyoto
Symposia on Language Problems in the Modern
Sciences*, co-edited with Kim Yung Sik
(IRH Occasional Seminar Reports No. 5) Kyoto University: Institute
for Research in Humanities 2001・3
(53pp.)
- 20 『生物のかたちと数理—近藤滋氏との対話—』 京都大学人文科学研究所 2001・3
(加藤和人と共編) (58pp.)
- 21 『鯨島尚信在欧外交書簡録』(松田清と共編) 思文閣出版 (625pp.) 2002・2

- | | | | |
|--------------|--|--|------------|
| 22 | 『前近代久米島文化の復元—未公開の家文書群の学際的実地検証をふまえた解説による—』日本学術振興会科学研究費成果報告書（横山俊夫代表，上江洲均，都築晶子ほかと共編）平成 11-13 年度基盤研究(A)(1)，課題番号 11309005 | 京都大学人文科学研究所
(203pp.) | 2002・3 |
| 23 | 『前近代久米島文化の復元 上江洲家・與世永家・吉濱家・宮城家文書目録』日本学術振興会科学研究費成果報告 別冊（横山俊夫代表，上江洲均，都築晶子ほかと共編）平成 11-13 年度基盤研究(A)(1)，課題番号 11309005 | 京都大学人文科学研究所
(303pp.) | 2002・3 |
| 24 | <i>The Kyoto/Seoul Symposium on Linguistic Challenges in the Modern Sciences: First Movement at Sansai Gakurin, 4th-6th July 2002 - an interim report -</i> , co-edited with Kim Yung Sik (IRH Occasional Seminar Reports No. 7) | Kyoto University: Institute for Research in Humanities
(108pp.) | 2002・12 |
| 25 | 『人文学報—媒介者の復権』（人文学報 86 号 共同研究班特集）（三浦國雄と共編） | 京都大学人文科学研究所
(312pp.) | 2003・3 |
| 26 | 『十九世紀日本における日用百科書による礼法知識伝播についての政治社会学的研究』日本学術振興会科学研究費成果報告書平成 14-15 年度基盤研究(C)(2)，課題番号 14520095（改訂版） | 京都大学人文科学研究所
(65pp.) | 2004・6 |
| 27 | 『節用の日本文明』（『ひととき』連載複製，索引補） | 京都大学三才学林
(36pp.) | 2004・6 |
| 28 | 『難波鉦一梅之部抄』（文明と言語研究班編，人文科学研究所共同研究拾遺） | 京都大学人文科学研究所
(46pp.) | 2006・3 |
| 29 | 『難波鉦一松之部抄』（文明と言語研究班編，人文科学研究所共同研究拾遺 第 2 刷，補訂版） | 京都大学人文科学研究所
(60pp.) | 2007・12 |
| 30 | 『三才学林〈営林〉策を求めて』（編著） | 京都大学三才学林
(70pp.) | 2009・10 |
| 31 | 『ことばの力—あらたな文明を求めて』（編著，京都大学人文科学研究所共同研究報告） | 京都大学学術出版会
(xvi + 418pp.)
(なお，同一内容の京都大学人文科学研究所刊 200 部限定版あり) | 2012・3 |
| B 翻 訳 | | | |
| 1 | コンラッド・トットマン「阿部正弘と徳川斉昭，1844-1852 年—徳川幕府における政治的和解—」，A. クレイグ，D. シャイヴリ共編『日本の歴史と個性』(上) | ミネルヴァ書房
(pp. 204-236) | 1973・12 |
| 2 | メアリー・フレイザー著，ヒュー・コータツツィ編『英国公使夫人の見た明治日本』（訳，解説） | 淡交社 (358pp.) | 1988・3 |
| 3 | ‘The Heian Declaration’（「平安宣言」英語版／jointly translated with Peter Kornicki） | 財団法人 平安建都千二百年記念協会 | 1994・11・8 |
| 4 | ‘Kyoto Proposal 2003’（「京都提言 2003」英語版／jointly translated with Peter Kornicki） | 京都文化会議 | 2003・11・30 |
| 5 | マイケル・ローウィ「藤枝晃先生追悼」『藤枝晃先生追悼文集』 | 自然文化研究会
(pp. 261-266) | 2000・6 |
| 6 | 『鮫島尚信在欧外交書簡録』（前掲）第Ⅱ部 翻訳編（松田 清と共訳） | 思文閣出版
(pp. 243-469) | 2002・2 |

- 7 「Kyoto University Mission Statement」
（「京都大学基本理念」英語版／ jointly translated
with James McMullen, et al.） 京都大学 2006・4
- 8 「Kyoto Proposals 2007」
（「京都提言 2007」英語版／ jointly translated with
Peter Kornicki and Tracey Gannon） 京都文化会議 2007・12・9

C 論 文

- 1 「『国意考』にあらわれたまつりごとの世界」 『人文学報』第36号 1973・3
（pp. 53-121）
- 2 「『藩』国家への道—諸国風教触と旅人—」 林屋辰三郎編 1976・3
『化政文化の研究』
岩波書店（pp. 81-130）
- 3 「『古日本カムサスカ』と魯鈍斎利明
—18世紀末日本の時間観念についての覚書—」 『人文学報』第42号 1976・12
（pp. 59-101）
- 4 「『神国』への道」 林屋辰三郎編 1978・2
『幕末文化の研究』
岩波書店（pp. 41-90）
- 5 ‘Tourism, Dandyism, and Occultism: the quest for
national identity in nineteenth century Japan’ *Proceedings of the British
Association for Japanese
Studies*, Vol. 3, Part 1,
University of Sheffield
（pp. 1-15） 1978・3
- 6 ‘“This Singular Country”: Victorian Perceptions of
Japan in the 1860’s’ *Zinbun*, No. 15 1979・11
（pp. 249-284）
- 7 「イギリスからみた日本の『開化』—西洋文明からの距
離—」 林屋辰三郎編 1979・11
『文明開化の研究』
岩波書店（pp. 141-188）
- 8 「ヴィクトリア期イギリスにおける日本像形成につい
ての覚書〈I〉—S. オズボーンとエディンバラの出
版社ブラックウッド—」 『人文学報』第48号 1980・3
（pp. 1-24）
- 9 「好人愛樹—前近代日本の都市空間の一極相」 中村賢二郎編『前近代に
おける都市と社会層』京
都大学人文科学研究所
（pp. 343-382） 1980・10
- 10 ‘Mitford and Murata – two critical minds on popular
images between Britain and Japan in the early Meiji
Period’ *Proceedings of the British
Association for Japanese
Studies 1980*, Vol. 5, Part
1, University of Sheffield
（pp. 155-163） 1980・12
- 11 「談叢近代日本関係洋書 II（J. de Hübner, *Promenade
autour du monde-1871*, Paris, 1873）」 『人文学報』第51号 1982・3
（pp. 193-198）
- 12 「ヴィクトリア期イギリスにおける日本像形成につい
ての覚書〈II〉—L. オリファントとエディンバラの
出版社ブラックウッド—」 『人文学報』第50号 1981・3
（pp. 55-83）
- 13 「談叢近代日本関係洋書 IV（R. M. Jephson & E. P.
Elmhirst, *Our Life in Japan*, London, 1869）」 『人文学報』第51号 1982・3
（pp. 101-105）
- 14 「A. B. ミットフォードによるイギリスへの日本紹介
—1869年～72年を中心に—」 『人文学報』第53号 1982・3
（pp. 47-72）

- | | | | |
|----|---|---|-------------------|
| 15 | 'Japan in the Victorian Mind, 1850-1880; a study of stereotyped images of a nation' | D. Phil. Thesis submitted to the University of Oxford (Limited edition, xii + 301pp.) | 1982・9 |
| 16 | 「日本人必携の辞書であった節用集から現代へのメッセージ」 | 『中央公論』昭和59年2月号 (pp. 280-293)
(ハングル訳『알본의배아라』8号 pp. 111-121) | 1984・2
1984・3 |
| 17 | 「節用集と日本文明」 | 梅棹忠夫, 石毛直道編『近代日本の文明学』中央公論社 (pp. 59-92)
(芳賀徹編『江戸とは何か1 徳川の平和』至文堂に再録 pp. 126-152) | 1984・5
1985・10 |
| 18 | 「談叢近代日本関係洋書 VI (H. Harben, <i>Japan and Back</i> , Welwyn Garden City, 1936)」 | 『人文学報』第57号 (pp. 125-130) | 1984・9 |
| 19 | 'The <i>Setsuyōshū</i> and Japanese Civilization' | <i>Japanese Civilization in the Modern World</i> , T. Umesao, H. Befu, and J. Kreiner, eds., <i>Senri Ethnological Studies</i> , No. 16 (pp. 17-36) | 1984・12 |
| 20 | 「不思議のヨーロッパ―在仏日本公使館雇マーシャル氏の西洋発見」 | 吉田光邦編『一九世紀日本の情報と社会変動』京都大学人文科学研究所 (pp. 165-208) | 1985・3 |
| 21 | 'The Importance of Japanese Studies in Britain for Future International Relations in the Asia-Pacific Region' | <i>NIRA International Conference Report Series</i> 3 (pp. 93-100) | 1986・4 |
| 22 | 「政事都市の肖像―前近代日本のばあい―」 | 中村賢二郎編『歴史の中の都市』ミネルヴァ書房 (pp. 49-74) | 1986・10 |
| 23 | 「在仏日本公使館雇フレデリック・マーシャル」 | 梅溪 昇, 嶋田 正, 山本幸彦ほか編『ザ・ヤトイ―お雇い外国人の総合的研究―』思文閣出版 (pp. 314-329) | 1987・4 |
| 24 | 「実用百科の文明学」 | 『アステイオン』7 (pp. 128-136) | 1988・1 |
| 25 | ' <i>Setsuyōshū</i> and Japanese civilization' | Sue Henny & Jean-Pierre Lehmann, eds., <i>Themes and Theories in Modern Japanese History</i> , London: Athlone Press (pp. 78-98) | 1988・3 |
| 26 | 「『京都大学人文科学研究所蔵 日本関係欧文図書総覧―1950年以前刊行分―』」 | 『書誌索引展望』13巻2号 (pp. 41-44)
(海野敏ほか編『書誌をつくる』下, 日外アソシエーツに再録 pp. 214-221) | 1989・5
1998・11 |
| 27 | 'Some notes on the history of Japanese traditional household encyclopedias' | <i>Japan Forum</i> , Oxford University Press, Vol. 1, No. 2. (pp. 243-256) | 1989・10 |

- 28 「総説」「子孫長久への道—『河内屋可正旧記』にみる
老と幼—」 横山俊夫, 藤井譲治編 1989・10
『安定社会における人生
の諸相—老人と子供—』
京都ゼミナールハウス
(pp. 5-18, 127-137)
- 29 'Frederic Marshall as an Employee of the Japanese
Legation in Paris' E. R. Beauchamp & A. Iriye, 1990・1
eds, *Foreign Employees in
Nineteenth-Century Japan*.
Boulder, San Fransisco &
London: Westview Press
(pp. 259-278)
- 30 「『諸道』の時代—前近代日本における家道論・色道論
をととして—」 藤井譲治, 横山俊夫編 1991・3
『安定社会における人生
の諸相—仕事と余暇—』
京都ゼミナールハウス
(pp. 33-47)
- 31 「日用百科型節用集の使用態様の計量化分析法につい
て」 『人文学報』第66号 1990・3
(pp. 177-202) (『日本語
学論説資料』第27号/
1990年刊行分, 第1分
冊上に収録 pp. 106-118)
- 32 「ガイジン」 上田篤編『マスシティー 1991・11
大衆文化都市としての日
本—』学芸出版社
(pp. 112-124)
- 33 「若き日の日本文明」「“文明人”の視覚」 横山俊夫編『視覚の一九 1992・6
世紀』(pp. 3-10, 13-64)
- 34 「画像処理による節用集(日用百科書)の使用実態の
分析」(小島三弘, 杉田繁治と共同執筆) 『情報処理学会研究報告』 1992・6
92=45/CH-92-45
(pp. 37-44)
- 35 「総説」「好事の時代の年中行事—『日次紀事』・『日本
歳時記』を読む—」 横山俊夫, 藤井譲治編 1992・6
『安定社会における人生
の諸相—年中行事—』
(pp. 5-23, 97-112)
- 36 「貝原益軒『家道訓』考」 前川和也編『家族・世 1993・4
帯・家門—工業化以前の
世界から—』ミネルヴァ
書房 (pp. 392-419)
- 37 'Gaijin: The Foreigner in Japan' A. Ueda, ed., *The Electric 1994・4
Geisha, Exploring Japan's
Popular Culture*. Tokyo,
New York & London:
Kodansha International
(pp. 175-184)
(独語版 Göttingen: Günter 1995
Peperkorn, pp. 175-184)
- 38 「雅にふく風・吉方にむく風—節用集・大雑書の世界」 『武庫川女子大学生生活美 1994・10
学研究紀要』4
(pp. 25-29)

- | | | | |
|----|---|---|---------|
| 39 | ‘Die Rolle der Setsuyoshu im Zivilizations- und Kulturprozess’ | S. Formanek & S. Linhart, eds, <i>Buch und Bild als gesellschaftliche Kommunikationsmittel in Japan einst und jetzt</i> . Wien: Literas (pp. 75-92) | 1995・11 |
| 40 | 「日本文化研究誕生のころ」 | 『国際交流』67 国際交流基金 (pp. 18-25) | 1995・4 |
| 41 | 「土屋健治さんの「アルマナック・ムラユ論」 | 『総合的地域研究』10, 文部省科学研究費補助金「重点領域研究」, 京都大学東南アジア研究センター (pp. 9-14) | 1995・9 |
| 42 | 「序 安定社会を生きる一益軒翁のうわさにことよせて」「達人への道—『楽訓』を読む」 | 横山俊夫編『貝原益軒』平凡社 (pp. 9-22, 25-68) | 1995・12 |
| 43 | 「『家道訓』の世界—不器量のすすめ」 | 同上 (pp. 261-288) (前掲第36論文を補訂再掲) | 1995・12 |
| 44 | 「ことばをなおす・つかう—貞室『かたこと』考—」 | 横山俊夫, 川那部浩哉ほか編『安定社会の総合研究—ものをつくる・つかう—』京都ゼミナールハウス (pp. 23-38) | 1996・6 |
| 45 | 「心中をたてるか偽るか—色道における和合持続の智恵—」 | 横山俊夫, 川那部浩哉ほか編『安定社会の総合研究—ことがおこる・つづく／なかだちをめぐって—』京都ゼミナールハウス (pp. 48-66) | 1997・6 |
| 46 | 「激動期のなかの日用百科」 | 横山俊夫, 川那部浩哉ほか編『安定社会の総合研究—ことがゆらぐ・もどる／なかだちをめぐって—』京都ゼミナールハウス (pp. 162-177) | 1998・10 |
| 47 | 「日英交流の百四十年」 | H. コータツツイ, G. ダニエルズ編, 大山瑞代訳『英国と日本—架橋の人びと』思文閣出版 (pp. 483-496) | 1998・11 |
| 48 | 「久米島具志川の日選び」 | 横山俊夫, 都築晶子編『久米島における東アジア諸文化の媒介事象に関する総合研究』文部科学省科学研究費補助金平成8-10年度基盤研究(A)(1)成果報告書(横山俊夫代表), 京都大学人文科学研究所 (pp. 27-38) | 1999・3 |
| 49 | ‘In Quest of Civility: Conspicuous Uses of Household Encyclopedias in Nineteenth-Century Japan’ | Zinbun, No. 34 (pp. 197-222) | 2000・3 |

- 50 「方言の力」 横山俊夫, 小林博行編 2000・12
『言語力の諸相』京都大学人文科学研究所
(pp. 1-21)
- 51 'Civilising the Academic World? — recent steps in
Kyoto in quest of dialogue between the humanities
and the modern natural sciences' Kim Yung Sik & T. Yokoyama, eds, *A Prelude
Symposium for Future
Seoul/Kyoto Symposia on
Language Problems in the
Modern Sciences* (IRH Oc-
casional Seminar Reports
No. 5) Kyoto University:
Institute for Research in
Humanities (pp. 1-9) 2001・12
- 52 「フレデリック・マーシャルと鮫島尚信」 松田 清, 横山俊夫編『鮫
島尚信在欧外交書簡録』
思文閣出版
(pp. 589-622) 2002・2
- 53 'Civilising the Usage of the Word, Civilisation' T. Yokoyama & Kim Yung
Sik, eds, *The Kyoto/Seoul
Symposium on Linguistic
Challenges in the Modern
Sciences: First Movement
at Sansai Gakurin, 4th-6th
July 2002 - an interim
report* - (IRH Occasional
Seminar Reports No. 7)
Kyoto University: Institute
for Research in Humanities
(pp. 87-99) 2002・12
- 54 「ヨーロッパに伝わった不思議の国」 『新訂増補 週刊朝日百科
71 日本の歴史 近世Ⅱ -
① 異国と異文化 鎖国
下の日本』朝日新聞社
(pp. 26-31) 2003・10・12
- 55 「大雑書考—多神世界の媒介—」 『人文学報』第 86 号 2003・3
(pp. 25-79)
- 56 「上江洲家の語彙集—久米島書物文化の一断章—」 横山俊夫, 上江洲均, 都
築晶子ほか編『前近代久
米島文化の復元—未公開
の家文書群の学際的実地
検証をふまえた解説によ
る—』日本学術振興会科
学研究費補助金平成
11-13 年度基盤研究(A)
(1) 成果報告書(横山俊
夫代表), 京都大学人文
科学研究所
(pp. 97-110) 2002・3
- 57 「久米島具志川間切の日選び」 久米島西銘誌編集委員会 2003・12
編『久米島 西銘誌』
(pp. 820-835)
(上記第 48 論文補訂再録)

- 58 「節用集ならびに大雑書の文明化力」 横山俊夫『十九世紀日本における日用百科書による礼法知識伝播についての政治社会学的研究』日本学術振興会科学研究費補補助金平成 14-15 年度基盤研究(C)研究成果報告書(改訂版) 京都大学人文科学研究所 (pp. 1-16) 2004・6
- 59 'Experiencing a Sustainable Society — Thoughts on the Civilising Role of *Setsuyōshū* and *Ôzassho*, Two Popular Household Encyclopedias in Premodern Japan' (Oxford Visiting Lecture, 14 November 2003), 同上基盤研究(C)研究成果報告書 (pp. 17-31) 2004・6
- 60 'On the Civilising Role of *Ôzassho*, the Household Encyclopedia for Divining in Premodern Japan' *Zinbun*, No. 37 (pp. 129-149) 2004・3
- 61 'The Illustrated Household Encyclopedias that Once Civilized Japan' S. Formanek & S. Linhart, eds., *Written Texts — Visual Texts, Woodblock Printed Mass Media in Early Modern Japan*, Amsterdam: Hotei (pp. 47-72) 2005・3
- 62 'Even a sardine's head becomes holy: the role of household encyclopedias in sustaining civilisation in pre-industrial Japan' *Sansai, An Environmental Journal for the Global Community*, No. 1 (pp. 41-57) 2006・1
- 63 'The Role of Universities in Civilizing the Global Community' *International Academic Conference for the 60th Anniversary of Dankook University: Global Talent Sought-after throughout the World*, Dankook University (pp. 1-9) 2007・10
- 64 電子版(含, 訂正補注): 'Even a sardine's head becomes holy: the role of household encyclopedias in sustaining civilisation in pre-industrial Japan,' *Sansai*, No. 1 (2006, pp. 41-57), with the author's amendments and a note Kyoto University Research Information Repository (KURENAI) 2010・3
- 65 'Civility in a Polytheistic Environment: A Perspective from the Japanese Experience' *Zinbun*, No. 42 (pp. 175-185) 2011・3
- 66 「序—ことばの力と文明化」「十八世紀日本の言葉なおし—浪華のものしり山本序周の場合」 横山俊夫編『ことばの力—あらたな文明を求めて』京都大学学術出版会 (pp. i-viii, 37-90) 2012・3

D 定期刊行物

- 1 『けいはんなマラソンセミナー／人間・生物・時間』初会合, 第 1 回—第 14 回報告書(田中雅一と共編) 株式会社けいはんな交流部 1992・12～2000・3

人 文 学 報

- 2 「京都国際セミナー 安定社会の総合研究 報告書」
 (書名は各冊別) 第1冊—第10冊 (藤井譲治, 川那
 部浩哉, 遊磨正秀ほかと共編, 第1, 3, 7, 8, 9, 10冊
 は横山俊夫主編, 第5冊は田端英雄編) 財団法人 京都ゼミナ
 ルハウス 1989・10
 1991・3
 (183pp., 201pp., 241pp., 1992・6
 277pp., 207pp., 192pp., 1993・9
 205pp., 181pp., 193pp., 1995・3
 154pp.) 1996・3
 1996・6
 1997・6
 1998・10
 2000・3
- 3 『とうんばらー通信』 第1号—第21号 京都大学人文科学研究所 1996・8・22
 (科学研究費補助金基盤 (A) (1) 課題番号 08309006, 横山研究室
 11309005 研究速報, 都築晶子, 高山泉と共編) ~
 2001・12・25
- 4 *Sansai, An Environmental Journal for the Global* Kyoto University: Sansai 2006・1
Community, No. 1—No. 5, co-ed. with Tracey Gakurin (iv + 112pp., 94pp., 2007・3
Gannon 130pp., vi + 80pp., viii + 2008・3
 136pp.) 2009・12
 2011・4
- 5 『嶋臺塾記録』 第1冊—第7冊 (今西純一, 大窪健之,
 大谷恵津子, 藤田健一と共編) 京都大学三才学林 2006・2
 (38pp., 75pp., 101pp., 112pp., 2007・3
 108pp., 102pp., 77pp.) 2008・2
 2009・3
 2010・2
 2011・2
 2012・2
- 6 『紅萌』 第4号—第7号 (共編, 編集後記) 京都大学情報化推進部大 2003・9
 学情報課 (各号 22pp.) 2004・3
 2004・9
 2005・3
- 7 『京都大学大学院 地球環境学堂 地球環境学舎 三才学
 林 年報』 地球環境学堂 2004・3
 (平成 14-22 年度 / April 2003-March 2011) (160pp., 165pp., 230pp., 2005・3
 187pp., 210pp., 239pp., 2006・3
 (初巻責任編集, 以後各巻の三才学林報告ほか担当 239pp., 244pp., 262pp.) 2007・3
 分野報告編集) 2007・9
 2008・10
 2009・12
 2010・12
 2011・10

E 国際会議録

- 1 『人文学の新時代』 (前掲著書 18) 2000・3
- 2 *A Prelude Symposium for Future Seoul/Kyoto* (前掲著書 19) 2001・12
Symposia on Language Problems in the Modern
Sciences
- 3 *The Kyoto/Seoul Symposium on Linguistic Challenges* (前掲著書 24)
in the Modern Sciences...

- 4 『京都文化会議 2003 [—2007] 報告書—地球化時代の
 ところを求めて』(共同企画, 共編)／
*Kyoto International Culture Forum 2004 [—2007]
 — In Quest of Kokoro/Human Minds for This
 Planet* (jointly planned and edited)
 京都文化会議組織委員会 2004・3
 /Kyoto International Cul- 2005・3
 ture Forum Organizing 2006・3
 Committee (138pp., 166pp., 2007・2
 98pp., 81pp., 94pp./76pp., 2008・3
 88pp., 73pp., 84pp.) /KICF:
 2005・3
 2006・3
 2007・2
 2008・3
- 5 *Sansai, The Journal of the Grove of Universal
 Learning – Pre-inaugural issue*, Tracey Gannon and
 Toshio Yokoyama, eds. (from ‘The First Kyoto
 University Conference on International Cooperation
 to Integrate Diverse Environmental Studies in View
 of a Future Global Civilisation,’ Kyoto, 29-30 Sep-
 tember 2003)
 Kyoto University: 2004・12
 Sansai Gakurin (ii+75pp.)
- 6 『第 8 回京都大学国際シンポジウム「地球社会の調和
 ある共存にむけて」—中間報告書／*The 8th Kyoto
 University International Symposium: “Towards
 Harmonious Coexistence Within the Human and
 Ecological Community on This Planet” — An
 Interim Report*』(田代 恵と共編)
 京都大学: 国際交流推進 2007・3
 機構／
 Kyoto University:
 Organization for the
 Promotion of International
 Relations (OPIR) (50pp.)
- 7 *Report of the 9th Kyoto University International
 Symposium: “Integrating Global Environmental
 Studies Towards Human Security.”* co-ed. with
 Ainslie Kerr et al.
 Kyoto University: OPIR 2007・11
 & Graduate School of
 Global Environmental
 Studies (xiv + 74pp.)
- 8 *Report of the 10th Kyoto University International
 Symposium: “Active Geosphere Science,* co-ed.
 with S. Yoden, T. Awaji, J. Mori, F. Furutani, A.
 Kerr and M. Matano
 Kyoto University: OPIR 2008・3
 & Active Geosphere
 Investigations for the
 21st Century (KAGI 21)
 (38pp.)
- 9 *The 11th Kyoto University International Symposium
 (KUIS-11/ Shanghai, Oct. 9-11, 2008): Frontier
 Bioscience in Modern Medicine — Report,* co-ed.
 with N. Minato, A. Kerr, E. Hatanaka et al.
 Kyoto University: OPIR 2009・3
 (46pp.)

F 事 典 項 目

- 1 「高島秋帆」
 『世界伝記大事典: 日
 本・朝鮮・中国編』第 3
 巻, ほるぷ出版
 (pp. 316-317) 1978・7
- 2 「ラーマン (M. Rahmān)」
 『世界伝記大事典: 世界
 編』第 11 巻, ほるぷ出
 版 (pp. 501-504) 1981・6
- 3 「日本研究 [イギリス]」
 (ゴードン・ダニエルズと共同執筆)
 『大百科事典』第 11 巻, 1985・6
 平凡社 (pp. 411-412)
- 4 「オールコック」「ミットフォード」
 伊東俊太郎編『世界から
 見た日本』
 (エナジー小事典 第 11
 号), エッソ石油 (pp. 52,
 180-181) 1988・12

- 5 「西域物語」「節用集」 『日本史大辞典』第4巻, 1993・8
平凡社 (pp. 126, 238)
- 6 「日本研究〔イギリス〕」(ゴードン・ダニエルズと共
同執筆) 『日本史大辞典』第5巻, 1993・11
平凡社 (pp. 566-577)
- 7 「礼儀作法」 『歴史学事典』第9巻 2003・2
〔法と秩序〕, 弘文堂
(pp. 667-669)

G 書 評

- 1 梅棹忠夫ほか編『朝日講座・探検と冒険』 『人文』第6号(野村雅一 1973・1
(全8巻, 朝日新聞社) と分担) (pp. 15-17)
- 2 会田雄次『アーロン収容所再訪』(文藝春秋社) 『人文』第15号 1976・9
(pp. 10-11)
- 3 吉田光邦『両洋の眼—幕末明治の文化接触—』 『人文』第20号 1979・9
(朝日新聞社) (pp. 15-16)
- 4 山下正男『思想の中の数学的構造』(現代数学社) 『人文』第25号 1982・3
(pp. 21-21)
- 5 中村賢二郎『都市の社会史』(ミネルヴァ書房) 『人文』第30号 1984・10
(pp. 17-18)
- 6 「食い意地からの現代論」橋本憲一著『うまい魚が食
いたい』(晶文社) 『中央公論』昭和60年5 1985・5
月号 (pp. 236-237)
- 7 Hugh Cortazzi, *Dr Willis in Japan, 1862-1877, British* *Japan Quarterly*, Vol. 33, 1986・7-9
Medical Pioneer (London: Athlone Press) No. 3 (pp. 330-332)
- 8 「“骨太な”選択のもとに…」佐伯彰一, 芳賀 徹編 『文化会議』218 1987・8,
『外国人による日本論の名著—ゴンチャロフからパ
ンゲまで—』(中央公論社) (pp. 34-36)
- 9 「なぜ日本人は“日本文化論”が好きなのか」 『諸君』(pp. 231-233) 1987・12
ハルミ・ベフ著『イデオロギーとしての日本文化
論』(思想の科学社)
- 10 加藤淳平『日本の文化交流』(サイマル出版会) 『文化会議』238号 1989・4・
(pp. 39-40)
- 11 Olive Checkland, *Britain's Encounter with Meiji* *Journal of Japanese Studies* 1993・2,
Japan, 1868-1912 (London: Macmillan Press) (U. of Washington) Vol. 19,
No. 1 (pp. 173-176)
- 12 東田雅博『大英帝国のアジア・イメージ』(ミネル
ヴァ書房) 『史学雑誌』第106編 1997・7
第7号 (pp. 95-101)

H そ の 他 (抄録)

- 1 「ベンガルの熱い冬」 『人文』第9号 1973・12
(pp. 6-7)
- 2 「コムポジション」 『人文』第11号 1974・12
(pp. 21-21)
- 3 「ジャイ・ヒン・サーブ」 『人文』第11号 1974・12
(pp. 24-26)
- 4 「化政文化年表」(熊倉功夫, 守屋 毅らと共編) 林屋辰三郎編『化政文化 1976・3
の研究』, 岩波書店
(pp. 2-35)
- 5 「ザ・ミカド, あるいはティティブの町」 『人文』第20号 1979・9
(pp. 21-23)

横山俊夫教授 略歴・著作目録

6 「イギリスからみた幕末日本の宗教」	『人文』第21号 (pp. 21-23)	1980・3
7 「バッツフォード・アルポリータム」	『人文』第22号 (pp. 17-19)	1980・8
8 「京都市の文化行政—その課題と施策についての考え方—」(共同執筆)	京都市 (28pp.)	1980・3
9 「節用集と日本文明」	『人文』第25号 (pp. 15-16)	1982・3
10 「前世紀末の日本の道学」	『季刊さろん日本文化』 2号 (pp. 8-9)	1981・7
11 「京都スタイル誕生 '80 京都デザイン会議・会議録」	京都デザイン会議	1981・11
12 「節用集と日本文明」	『会誌』30号, 財団法人 竹中育英会 (pp. 86-87)	1982・12
13 「歴史学—外国からみた日本」(談)	『京都新聞』	1983・6・12
14 「初のパリ駐在外交官 鯨島尚信の面影」	『毎日新聞』	1983・7・18
15 「外国をみる眼—百年まえの話」	『会誌』32号, 財団法人 竹中育英会 (pp. 92-93)	1984・12
16 「一九世紀の文明史的研究」	『人文』第32号 (pp. 28-29)	1986・3
17 「編集後記」	吉田光邦ほか編『一九世紀日本の情報と社会変動』, 京都大学人文科学 研究所 (pp. 569-570)	1985・3
18 「コメント／シンポジウム—高度情報社会と日本文明」	『比較文明』2, 比較文明学会 (pp. 164- 166)	1986・10
19 「一九世紀の視覚—メアリー・フレイザーの明治日本—」	『人文』第34号 (pp. 12-13)	1988・3
20 「ヨーロッパに伝わった不思議の国」	『週刊朝日百科・日本の 歴史』78 (pp. 26-31)	1987・10
21 「歴史と未来」(祖父江孝男, 中内 功と鼎談)	『産経新聞』	1987・12・ 25-26
22 「国際化の視座 国際化と日本研究—ナショナル・スタ ディーズを越えて」	『RIRI 流通産業』9 (pp. 28-29)	1988・9
23 「人の国際化に好条件—個性花開く養生の地に」	『京都新聞』	1988・12・6
24 「挨拶」	『会誌』36号, 財団法人 竹中育英会 (pp. 22-24)	1988・12
25 「マナー左右するマナー」	『京都新聞』	1988・1・1
26 「想いつくまに」	『京都大学国際交流会館 ニュース』16号 (p. 1)	1989・1
27 「200年前の活性化案」	『産業活性化ニュース』 No. 14, 財団法人 関西 産業活性化センター (pp. 13-14)	1989・2
28 『ソフトで拓く新世紀 — 京都活性化への提言』(佐 和隆光ほかと共同執筆)	京都21会議／京都新聞 社宛提出 (30pp.)	1989・3・27
29 「京都活性化への提言—京都21会議」(共同執筆)	『京都新聞』	1989・4・2
30 「ホッコリデーのすすめ」	『京都新聞』	1989・4・29
31 「安定期社会の老人と子供」	『毎日新聞』	1989・9・13

- | | | |
|---|---|------------------------------|
| 32 『りんくうタウンにおけるカルチャー・コア実現化方
策一研究調査報告書』（討論参加） | 千里文化財団（105pp.） | 1989・7・31 |
| 33 「文明について」「手垢しらべ」「都市の美」「本音のと
ころ」「余り六」「よほどのこと」「文明の基本」「家
政学復興」「クマの国」「区切り幻想」「国際問題」
（連載「視点」コラム） | 『毎日新聞』 | 1989・10・3
）
1989・12・26 |
| 34 『京都府文化フォーラム 第3回』（夏 剛，野村雅一，
モハマド・ナギザデと／企画，討論，編集） | 京都府文化芸術室
（42pp.） | 1989・11 |
| 35 「一筆啓上」 | 『会誌』37号，財団法人
竹中育英会（pp.92-93） | 1989・12 |
| 36 『CDI 株仲間からの京都への提言』（執筆分担） | 株式会社シー・ディー・
アイ（pp.23-24） | 1989・12 |
| 37 「社会史の行方」（川北 稔，川島昭夫と鼎談） | 『JUSTITIA』創刊号，
ミネルヴァ書房
（pp.13-37） | 1990・3 |
| 38 『外国人及び外国企業活動促進のための調査報告書』
（主査・共同編集） | 財団法人 関西産業活性
化センター（pp.115） | 1990・3 |
| 39 「薀にして快一貝原益軒とその時代研究班一」 | 『人文』36（pp.32-33） | 1990・3 |
| 40 「マス・シティの風景―「ガイジン」」 | 『産経新聞』（夕刊） | 1990・5・10 |
| 41 「梅棹文明学私見」 | 『梅棹忠夫著作集』7
「月報」，中央公論社
（pp.6-8） | 1990・8 |
| 42 『平成の構図―新しい社会システムはあるか』
（第3回富士会議報告・討論参加） | 日本アイ・ビー・エム株
式会社 | 1990・8 |
| 43 「文の復権―情報の時代の日本・京都」（講演録） | 『89 比叡会議報告』
日本アイ・ビー・エム株
式会社（pp.74-94） | 1990・10 |
| 44 「歴史のなかの家族」（前川和也ほかと座談） | 『JUSTITIA』2，ミネル
ヴァ書房（pp.40-94） | 1991・3 |
| 45 『京都府文化フォーラム（第5回）―文化・画一性と個
性―』（阪本寧男，深見陶冶，石森秀三と／討論主
宰，編集） | 京都府文化芸術室
（48pp.） | 1991・3 |
| 46 『災害史・災害技術史の研究体制に関する研究』
野中泰二郎編（星野 聡，佐藤忠信，土屋義人，河田
恵昭，金田章裕ほかとの会議録） | 京都大学防災研究所
（75pp.） | 1991・3 |
| 47 「第3回関西地区大学対校留学生日本語ディベートコ
ンテスト審査講評」 | 『留学生ウィーク'90』大
阪国際交流センター
（pp.53-54） | 1991・3 |
| 48 「安定社会の仕事と余暇」 | 『毎日新聞』（夕刊） | 1991・3・15 |
| 49 『長岡京ガラシャ祭―市民祭一実施構想報告書』（討論
参加） | 長岡京市イベント検討委
員会（12pp.） | 1991・5 |
| 50 『21世紀への道程（1）―集団主義と個人主義―
第4回富士会議報告』（討論参加・分科会総括） | 日本アイ・ビー・エム株
式会社 | 1991・10 |
| 51 「諸道の時代（上，中，下）」 | 『ゼミ友の会だより』45，
46，47号，京都府立ゼ
ミナールハウス
（pp.2-3，pp.4-5，p.4） | 1991・11
1992・1
1992・3 |
| 52 「一筆啓上」 | 『会誌』39号，財団法人
竹中育英会（p.109） | 1992・2 |

53 「礼儀作法学園としての鎖国日本」	『ON THE LINE』5巻7号, 国際電電広報室 (pp. 30-34)	1992・11
54 「ジャパンフェスティバル 1991 の意義 (鹿取泰衛, 佐波正一, 山崎敏夫と対談)」 「年表: 近代日英文化交流の歩み」 「英国ジャパンフェスティバル 1991 視察・調査報告書」	『ジャパン・フェスティバル 1991 報告書』 国際交流基金 (pp. 4-27, 28-29, 70-83)	1992・12
55 「歴史家と時間」	『けいはんなマラソンセミナー「人間・生物・時間」—初会合の記録—』 (井上民二, 小長谷有紀ほかと) (田中雅一と共編) 株式会社けいはんな (14pp.)	1992・12
56 「当世名前事情」	『News Letter』No. 2, 一乗寺国際研修センター (p. 2)	1993・1
57 「日曜論争・京都—歴史都市の将来」 (安藤忠雄と)	『毎日新聞』	1993・1・31
58 「歴史都市の課題と交流 上, 中, 下」 (西川幸治, 宮前保子と鼎談)	『京都新聞』	1993・3・7, 3・14, 3・21
59 「共同体の原像と社会契約—ヒトとサルの間」 (伊谷純一郎, 河上倫逸と鼎談)	『比較法史研究』2, 未来社 (pp. 118-159)	1993・3
60 『シンポジウム '92 留学生の目から見た日本の大学』 (司会, 編集)	京都市・大学事務連絡協議会 (34pp.)	1993・3
61 『京都府文化フォーラム／総括座談会』 (井上章一, 樺山紘一, 高田公理と) (司会, 編集)	京都府文化芸術室 (34pp.)	1993・3
62 『京都府文化フォーラム／総括報告書—京都文化の可能性を探る—』 (同フォーラム全7回での発言抄録)	京都府文化芸術室 (52pp.)	1993・3
63 「年中行事と災害」	『防災科学資料センター・ニュース』5, 京都大学防災研究所 (p. 65)	1993・3
64 「貝原益軒本流布に関する社会史的研究」 (文部省科学研究費補助金平成4年度一般研究(C)実績報告書)	文部省学術国際局宛提出	1993・3
65 「迫りくる安定社会—その明と暗—」	『文化会議』286 (pp. 16-21)	1993・4
66 「肉体に癒着した時間」	『人間・生物・時間—さまざまな時間を求めて／第1回研究会記録』 (毛綱毅曠, 四方哲也, 本川達雄ほかと) (田中雅一と共編) 株式会社けいはんな (14pp.)	1993・9
67 『21世紀への道程(3)』 (第6回富士会議報告, 討論参加)	日本アイ・ビー・エム株式会社	1993・9
68 「セミナー開会にあたって」	川那部浩哉, 遊磨正秀編 『生態学からみた安定社会—多様性の維持と促進—タンガニカ湖の魚類群集から—』 京都ゼミナールハウス (pp. 6-8)	1993・9

- 69 「ふるまい—行動の文化」(いとうせいこう, 井上章子, 日下公人, 鷺田清一と座談) 『京都新聞』 1993・10・26
- 70 『吉田光邦 両洋の人』(吉田光邦追悼文集刊行会編) 思文閣出版 (382pp.) 1993・11
- 71 「第3回平安宣言シンポジウム／京都を見る世界の目」(安藤仁介, 中野良子, 諸井誠, 河上倫逸と) 『京都新聞』 1993・12・19
- 72 「一三〇〇年へのメッセージ」(西谷玲子, 橋本和良, 深見陶治と座談) 『京都新聞』 1994・1・1
- 73 「一筆啓上」 『会誌』41号, 財団法人 竹中育英会 (p.119) 1994・1
- 74 『人間・生物・時間—さまざまな時間を求めて／第2回研究会記録』(廣瀬千紗子, 中牧弘允, 安富歩, 石森秀三ほかと), 『同／第3回研究会記録』(三浦國雄, 樂 吉左衛門, 郡司幸夫ほかと)(田中雅一と共編) 株式会社 けいはんな (13+11pp.) 1994・1, 3
- 75 「「外文明と内世界」をめぐって」(土屋健治ほかと座談) 『総合的地域研究』4, 京都大学東南アジア研究センター (pp.26-36) 1994・3
- 76 「近世文書篇」(共同執筆) 『琉球列島における宗教関係資料に関する総合調査・総合目録編』 平成四, 五年度科学研究費補助金(総合A)研究成果報告書(渡名喜明代表), 琉球大学 (pp.187-234) 1994・3
- 77 「一日を一〇倍長く」 『biohistory／生命誌』2巻1号, 生命誌研究館 (p.11) 1994・4
- 78 「益軒「楽訓」にみる時間の揺らぎ／上昇から水平へ—安定期社会の人間学—1」 『毎日新聞』 1994・4・2
- 79 『海外の“日本人”のイメージ』(オムロン京都文化フォーラム34号) オムロン株式会社 (39pp.) 1994・5
- 80 「ふるまい—行動のデザイン」(いとうせいこう, 井上章子, 日下公人, 鷺田清一と座談) 『伝統と創成フォーラム2』平安建都一二〇〇年記念協会 (pp.78) 1994・6
- 81 「貝原流時間調節型長命術」 『人間・生物・時間—さまざまな時間を求めて／第4回研究会記録』(クラウス・クラハト, 青野靖之ほかと)(田中雅一と共編) 株式会社 けいはんな (20pp.) 1994・6
- 82 「吉田文庫の開設」 『京都新聞』 1994・6・8
- 83 「京都を見る世界の目」(安藤仁介, 中野良子, 諸井 誠, 川上倫逸と座談) 『平安宣言シンポジウム3』平安建都一二〇〇年記念協会 (65pp.) 1994・8
- 84 「京都の伝統性／分科会報告」 『第11回'93比叡会議報告書』日本アイ・ビー・エム株式会社 (pp.100-105) 1994・10
- 85 『平安会議 会議記録 シンポジウム IV 100年後の政治』(エドワード・ヒース, 京極純一, 中西輝政ほか)(企画, 翻訳, 編集) 平安建都一二〇〇年記念協会 (pp.114-135) 1994・10

86 「平安宣言／‘The Heian Declaration’ (共同起草, 共訳)	財団法人 平安建都一二〇〇年記念協会 (2pp.)	1994・11
87 「都市に暮らす作法」(岩滝絵美子, 熊倉功夫と鼎談)	『どすねん』3号, どすねんの会 (pp. 2-8)	1994・11
88 「伝統と創生—新しい MIYABI をデザインする／平安建都 1200 年記念グランドフォーラム」(発言記録)	『京都新聞』	1994・11・27
89 「オタク現象と国際化」	『アイハウスニュース』 44, 大阪国際交流センター (p. 8)	1994・12
90 「『好色萬金丹』と三世相」	『人間・生物・時間—さまざまな時間を求めて／第 5 回研究会記録』(深澤一幸, 小島三弘, 夏剛ほか)(田中雅一と共編)株式会社けいはんな (24pp.)	1995・2
91 「貝原益軒—内向きの宇宙—」	『人文』41, 京都大学人文科学研究所 (pp. 15-16)	1995・3
92 「きもの産業 21 世紀のビジョンと提言」(共同執筆)	『フリート』臨時特集号, 京都和装産業振興財団 (14pp.)	1995・3
93 「コメンテーター評論」	『第 4 回世界歴史都市会議報告書 (1994)』 京都市総務局国際交流室 (pp. 152-153)	1995・3
94 ‘Comments from the commentator, Session III’	<i>The 4th World Conference of Historical Cities, General Report, Kyoto City</i> (pp. 165-166)	1995・3
95 「風流の都けいはんな」	『地域と世界と, 芸術文化の未来』(梅棹忠夫, 熊倉功夫, 高階秀爾らとパネル) 関西文化学術研究都市推進機構 (pp. 50-57)	1995・3
96 「時計捨て「ヒトの時間」の森—伝統的感覚回復への実験セミナー開催」	『日本経済新聞』	1995・4・11
97 「和風と和装, ひと言」	『織研新聞』	1995・4・12
98 『平安建都 1200 年記念 伝統と創成フォーラム集成』 (河合隼雄, 森谷尅久監修, 松岡正剛構成, 企画・討論参加横山)		1995・9
99 「手垢相をみる」	『こうとうけん』10, (財)国際高等研究所 (p. 10)	1995・10
100 『京都大学における国際交流』(共同執筆)	京都大学国際交流委員会 (208pp.)	1995・12
101 「貝原益軒—天地和楽の文明学／益軒は私のディスカバー・ジャパン」(談)	『毎日新聞』	1996・2・12

人 文 学 報

- 102 『時間の森へーマラソンセミナー「人間・生物・時間」
が贈る対話・体感・実験のひとつとき』（藤田隆則，
藤本憲一ほか）（田中雅一と共編） 株式会社けいはんな交流 1996・2
部（80pp.）
- 103 『「国立総合芸術センター（仮称）」構想に関する調査
研究報告書』（共同作成） 千里文化財団（50+20pp.） 1996・3
- 104 『「貝原益軒―天地和楽の文明学」の編者』（談） 『京都新聞』 1996・3・20
- 105 「楽しい脱成長社会の模索」 『毎日新聞』（夕刊） 1996・6・27
- 106 『グローバリゼーション―個の確立と縁』 日本アイ・ビー・エム株 1996・7
（第9回'96富士会議報告）（討論参加） 式会社
- 107 『地球の中のいのち―生命の経済』 日本アイ・ビー・エム株 1996・8
（第13回'95比叡会議報告書）（討論参加） 式会社
- 108 「いのちの縁―田中一村〈奄美の杜〉／パウル・クレー
〈舵手〉」（日曜くらぶ「二枚の絵」） 『毎日新聞』 1996・8・25
- 109 『現代におけるこころの問題』 国際ソロプチミストアメ 1996・8
（10周年記念フォーラム記録，河合隼雄，石田隆一，
劉 智剛，杉田繁治と） リカ日本中央リジョン
（43pp.）
- 110 「陶芸の未来を開こう，IAC日本会議」 『佐賀新聞』 1996・9・29
（乾 由明，P. グリーンハーフ，李 慶成，R. A. クク
タ，柳原睦夫とパネル）
- 111 「二十一世紀の花鳥風月 その一，言葉／つたえる」 『中央公論』 1996・11
（石川九楊，松井孝典と鼎談） （pp. 298-315）
（ハングル訳『日本포럼』 1996・12
31号 pp. 92-113）
- 112 「競争の野蛮から共楽の文明へ」 『月刊みんぱく』 230号 1996・11
（pp. 2-7）
- 113 「「半木半読会」へのお誘い」 半半会（京都府総合史料 1997・1
館気付）（一紙）
- 114 「二十一世紀の花鳥風月 その二，石／あやかる」 『中央公論』 1997・3
（樂 吉左衛門，松井孝典と鼎談） （pp. 141-137）
- 115 「提言 平安建都 1300年へ向けて」（河合隼雄ほかと
共同起草） ポスト 1200年懇話会 1997・3
（12pp.）
- 116 「モードの街・京都をめざして」（深井晃子と対談），
「提言・着立てのまち，京都へ」 『京都市きもの意識調査報 1997・3
告 きものは mode か？』
京都市産業観光局
（68pp.）
- 117 「シンポジウム 現代陶芸の国際性と土着性」 『国際陶芸アカデミー日 1997・3
（柳原睦夫，P. グリーンハーフ，R. A. ククタ，李
慶成，乾由明と） 本会議'96一名古屋・佐
賀 報告書』（日英仏文），
同会議名古屋実行委員会
編（pp. 28-39）
- 118 「色の道へとわけいれば
―非武装閉鎖空間の人間模様―」 『ホメオ京都』 1，電通関 1997・3
西支社（pp. 5-13）
- 119 「文化シンポジウム 21世紀・京都芸術探訪 風を創る」 『京都新聞』 1997・3・30
（鎌田東二，加藤和人，森口邦彦ほかと）
- 120 「第1回半半会，臼井史朗氏談「編集者の懺悔」を聴
いて」 『総合資料館だより』 111 1997・4
号（p. 9），京都府総合資
料館
- 121 「伝統新時代 第3部」（談） 『京都新聞』 1997・6・17
- 122 「大学と花鳥風月」 『京都大学の世紀 1997・6
1897-1997』紫水会出版
（pp. 179-183）

横山俊夫教授 略歴・著作目録

123 「二十一世紀の花鳥風月 その三、花／おもむく」(井上民二, 松井孝典と鼎談)	『中央公論』 (pp. 242-263) (ハングル訳『日本포럼』 34号, pp. 132-153)	1997・7 1997・10
124 「山野博史氏談「虫ほしを待ちわびる本」を聴いて」 「小山喜平氏談「吉田先生の踏査記—ホルムズと ジャム—」を聴いて」	『半半會だより』1号, 京都府総合資料館内 半木半読會 (pp. 1-2)	1997・7・1
125 「勤儉朴実」	『京都新聞』(夕刊)	1997・7・22
126 「花鳥風月図書館」	『京都新聞』(夕刊)	1997・9・12
127 「夢判じあれこれ」	『人間・生物・時間—さ まざまな時間を求めて— 第8回研究会記録』(ブ リギッテ・シテーガ, 中 島修一, 窪田幸子ほか) (田中雅一と共編) 株式 会社けいはんな (35pp.)	1997・9
128 『21世紀の風流を京都に』(京都の府民文化の未来を 考える懇談会／岡本道雄座長, 共同提言)	京都府府民労働部文化芸 術室 (ii + 24pp.)	1997・9
129 「イギリス体験と日本 萩原延壽氏へのロングインタ ビュー」(横山俊夫聴き手, 編集担当／1997・7・ 24, 宇都宮にて収録)	『国際交流』(国際交流基 金設立25周年記念号) 77, 国際交流基金 (24pp.)	1997・10
130 『21世紀の国立図書館 国際シンポジウム記録集 1966 東京／京都』(国立国会図書館編, 横山は京都会場 の記録を共編, 「あとがき」執筆)	(社)日本図書館協会 (214pp.)	1997・10
131 「二十一世紀の花鳥風月 その四、人／いつわの一揺 らぐダーウィニズム」(四方哲也, 松井孝典と鼎談)	『中央公論』 (pp. 140-159) (ハングル訳『日本포럼』 35号, pp. 97-119)	1997・11 1997・12
132 「三才学舎」	『京都新聞』第2集 ('京大創立100年'記念 特集)	1997・11・2
133 「日日新 木田安彦展によせて／Thoughts on “New Every Day: KIDA Yasuhiko Exhibition”」 (英文は Phillip Harries と共訳)	『日日新 木田安彦展』 京都新聞社, 同展実行委 員会 (pp. 1-4)	1998・1
134 「日選び」	『京都新聞』夕刊	1998・1・20
135 「竹門会 30 周年記念パネルディスカッション」(司会)	『会誌』45号, 財団法人 竹中育英会 (pp. 132-137)	1998・2
136 『21世紀・京都文化探訪—風を創る』(編著)	平安建都一二〇〇年記念 協会 (71pp.)	1998・3
137 「名をつける」	『京都新聞』夕刊	1998・3・18
138 「メアリー・フレイザーが蘇る」	『菊と薔薇』(パナソニッ ク・グローブ座公演プロ グラム) 東京アクター ズ・レパトリー・カン パニー (4pp.)	1998・4
139 「今様の風流」	『京都新聞』夕刊	1998・5・14
140 「節用集の手沢」	『半半會だより』4, 半木 半読會 (pp. 1-2)	1998・7
141 「夏宵三樂—雅楽・能・陶」(プログラム, 共編)	財団法人 楽美術館	1998・7

- | | | |
|--|--|-----------|
| 142 『第4次京都府総合開発計画点検報告書』
(同 点検懇話会会議参加) | 京都府 (48pp.) | 1998・9 |
| 143 「わざ・生命・文化」
(山口 修, 岡田節人, 杉田繁治と座談) | 『こうとうけん』16, 国際
高等研究所 (pp. 2-9) | 1998・12 |
| 144 『扉の向こうの時間へ—けいはんなマラソンセミナー
「人間・生物・時間」が贈る多次元のひととき』(田
中雅一と共編) | 株式会社けいはんな
(59pp.) | 1998・12 |
| 145 「安定社会を明るくする—京都国際セミナーを終えて」 | 『毎日新聞』(夕刊) | 1999・3・3 |
| 146 「日用百科の使われかた—十九世紀の日本—」 | 『人文』45,
京都大学人文科学研究所
(pp. 17-18) | 1999・3 |
| 147 「深見陶冶」 | 『NHK やきもの探訪』
第2巻 (対談), 風媒社
(pp. 67-95) | 1999・3 |
| 148 「「安定社会を楽しむ」は可能か
—京都国際セミナー10周年記念フォーラム報告」 | 『京都新聞』 | 1999・4・6 |
| 149 「まち人100年の肖像」
(品川文男『回想のアルバム京都市電』によせて) | 『京都新聞』 | 1999・5・1 |
| 150 「ことば選びの感性—前近代日本の場合」 | 『第12回感性研究フォー
ラム “伝統にみる感性”』
繊維学会研究委員会
(pp. 12-14) | 1999・5 |
| 151 「江戸期の庶民生活に迫る／研究室訪問」(談) | 『毎日新聞』(関西版) | 1999・10・4 |
| 152 「日用百科の使われかた—小口の手沢相は語る」 | 『静脩』36-2, 京都大学
附属図書館 (pp. 1-3) | 1999・10 |
| 153 『京都大学人文科学研究所第二回第三者評価委員会報
告』(共編・翻訳) | 京都大学人文科学研究所
(18pp.) | 1999・11 |
| 154 「人文回顧Ⅱ 二一世紀を展望して」(座談会記録) | 『人文』46,
京都大学人文科学研究所
(pp. 20-34) | 1999・11 |
| 155 「未来への一步, 日本人は何処へゆく／九」(談) | 『京都新聞』 | 2000・1・10 |
| 156 「言葉のあいまの力」 | 『人間・生物・時間,
第13回研究会記録』(勝
川 保, 藤田隆則, 山井和
則ほか), (田中雅一と共
編) 株式会社けいはんな
(pp. 22-25) | 2000・3 |
| 157 『^問、その魔法の時空/けいはんなマラソンセミナー
「人間・生物・時間」が贈る実感のひととき』
(第14回, 大谷佳世子, 安藤伸元, 森田忠彦ほか)
(勝川 保ほかと共編) | 株式会社けいはんな
(43pp.) | 2000・3 |
| 158 「無言をめぐって—〈安定社会と言語〉班」 | 『人文』47,
京都大学人文科学研究所
(p. 30) | 2000・3 |
| 159 「箒のはなし」 | 『京都新聞』 | 2000・4・19 |
| 160 「礼儀作法学校としての日本」 | 川勝平太編『鎖国』を
ひらく』同文館出版
(pp. 131-141) | 2000・6 |
| 161 「私の提言／天地人三才のあや」 | 『盛和スカラーズソサエ
ティ会報』4, 稲盛財団
(pp. 15-16) | 2000・8 |

横山俊夫教授 略歴・著作目録

162 「新世紀は熱き風流，文明への仕掛け」 (岩井 彩と対談)	『京都新聞』第2集 (pp. 2-3)	2000・12・15
163 「天地往来の人」(日本橋三越本店「NHK 衛星放送や きもの探訪展」図録，深見陶治作品解説)	NHK プロモーション (p. 66)	2000・12
164 「新しい京都学を創る(京都市国際交流会館桑原武夫 記念室開設十周年記念シンポジウム記録，竹内 實， 宇佐美 齊，冷泉貴実子，熊谷真菜と)」	『創造する市民』66， 京都市生涯学習振興財団 (pp. 37-43)	2001・1
165 「世界に開く 関西新世紀」 (北岡伸一，石井淳蔵と鼎談)	『縁』98，関西電力株式 会社 (pp. 3-15)	2001・1-2
166 「いのちのかたちの歴史をもとめて／フォーラム 二一世紀の西洋史学」	『西洋史学』200，日本西 洋史学会 (pp. 61-62)	2001・3
167 「人文・社会科学の新しいパラダイムを求めて」(川島 昭夫，佐伯啓思，田邊玲子，高橋義人と座談)	『人環フォーラム』 (創立10周年記念号)， 京都大学大学院人間・環 境学研究科 (pp. 2-13)	2001・3
168 「よみがえる日本文明—江戸期日本のいのちのかたち を考える」	『WEDGE』Vo. 13， No. 10	2001・10
169 「在野の歴史家萩原延壽氏が目指したもの」(談)	『朝日新聞』	2001・10・28
170 「提言」(途半ばの解散を)	『半半會だより』6， 半木半読會 (p. 5)	2001・11
171 「熱い出会い」	『学びのあゆみ二十年』 (京都市生涯学習振興財 団設立20周年記念誌) (p. 37)	2001・11
172 『京都大学地球環境学大学院 地球環境学堂・地球環 境学舎・三才学林』(新設大学院紹介，共同制作) (三折一紙)	京都大学	2001・12
173 『礼儀作法と日本文明—むかしの日用百科，『節用集』 と『大雑書』の世界から—』(2001・10・14 醫道 顕彰会例大祭記念講演録)	醫道顕彰会 (34pp.)	2001・12
174 「前近代の久米島文化」(談)	『沖縄タイムス』	2001・12・1
175 「どこまでもおおきな数—それなら京都からですワ」 (上野健爾，梶田真章，平林幸子鼎談，加藤和人， 斎藤清明，中村 勝ほかと共同企画，編集／京都ア スニー会館20周年記念特別講座)	『創造する市民』70， 京都市生涯学習振興財団 (pp. 26-31)	2002・1
176 「挨拶」	『会誌』49，財団法人竹 中育英会 (pp. 34-37)	2002・2
177 「NY で茶の湯のいやし／「新しさ」を提示」(談)	『京都新聞』(夕刊)	2002・2・23
178 『京都大学大学院地球環境学堂・地球環境学舎・三才 学林／Kyoto University Graduate School of Global Environmental Studies』(新設大学院紹介冊子／小 林正美，田村 類ほかと共編)	京都大学地球環境学堂・ 学舎・三才学林 (31pp.)	2002・4・19
179 『「ミニ博覧会」検討会』(第1回～第4回会議録／森 谷尅久・加藤和人・高田公理ほかと)	平安建都一二〇〇年記念 協会 (25+3pp.)	2002・7
180 「節用集みたいなお人」「よばひはし」を漢字で 「節用集は男だけのものか」「かくしどころは〈雅 な〉字で」「名付けは文明のかなめ」 (連載「節用の日本文明」)	『ひととき』2巻8-12号， 株式会社ジェイアール東 海エージェンシー (各号 p. 59，10号のみ p. 61)	2002・8-12
181 「いま京大で」4 (談／「学校が変わるとき」第3部)	『京都新聞』	2002・7・28
182 「天地人が和楽する文明を」(提言欄／三才学林紹介)	『京都新聞』	2002・12・31

- 183 「ちぎれちぎれの簾方」「無礼不義も文明のうち」「節用集のなかのお雛さま」「礼法百科をかざる吉野の花」「節用集と富士山」「節用集は福をもたらす宝典」「絵入りの書物がにぎわう国」「早引節用集は上方の気くばりの産」「あの世想いがささえる文明」「雅好きは最上級志向」「めでたい本とこわい本」「占いと淡くつきあう人もあり」(連載「節用の日本文明」) 『ひととき』3巻1号-12号, 株式会社ジェイアール東海エージェンシー(各号 p. 59, ただし 4-6号 p. 57, 8-10号 p. 61) 2003・1-12
- 184 「挨拶」 『会誌』49, 財団法人竹中育英会 (pp. 34-37) 2003・2
- 185 『特別部会「京都大学教育目標を語る」(京大懇話会ほか共同企画, 編集)』 平成14年8月31日京都大学全学シンポジウム記録 京都大学総務部 (40 + xiiipp.) 2003・4
- 186 「文化のモダニズム—文明, 作法, 相性」(高橋世織と対談) 『國文學』48巻5号 (pp. 6-25) 2003・4
- 187 『イスラームと世界』(第20回'02比叡会議報告書, 運営・討論参加) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (158pp.) 2003・4
- 188 「句会報」 『氷室』通巻128号 (p. 83) 2003・7
- 189 「大学院地球環境学堂三才学林看板上掲式」 『京大広報』No. 581 (p. 1508) 2003・7
- 190 「イギリス体験と日本—文化交流の個人史から」(129の萩原延壽談, 横山俊夫聴き手／1997・7・24収録, 横山編集のものを再録) 萩原延壽『自由の精神』, みすず書房 (pp. 330-370) 2003・9
- 191 『京都百年考—文化芸術都市の創造にむけて』(共同執筆／京都経済同友会21世紀委員会, 山折哲雄座長) 社団法人京都経済同友会 (16pp.) 2003・10
- 192 「京都提言2003」(共同起草) 京都文化会議 2003・11・30
- 193 「日いずる国を知る手だて」「明治節用大全は節用集か」「新しい節用集が望まれる」(連載「節用の日本文明」) 『ひととき』4巻1-3号, 株式会社ジェイアール東海エージェンシー(各号 p. 59) 2004・1-3
- 194 「特集1 近江舞子放談会」(小南一郎ほかの報告をうけ討論, 編集) 『環境と健康』Vol. 17, No. 1-No. 2 (pp. 8-37, pp. 55-77) 2004・2, 4
- 195 『中国とは何か』(第21回'03比叡会議報告書／共同企画・討論), 日本アイ・ビー・エム株式会社 比叡会議事務局 (126pp.) 2004・5
- 196 「1300年へ向けて」(「風流知事 中井 弘」紹介) 『平安建都一二〇〇年記念協会ニュース』第55号 (p. 5) 2004・5
- 『平安建都1200年紀年協会編『伝統と創生—協会ニュースで振りかえる20年』p. 544に再録) 2006・3
- 197 『21世紀の生命科学与社会—近江舞子放談会』(菅原 努, 山岸秀夫, 内海博司と共編) 財団法人 体質研究会／財団法人慢性疾患・リハビリテーション研究振興財団 (上記194も再録) (110pp.) 2004・7

198	「もののあはれを形に／京の文化・技術を総結集 京都ブランドフォーラム パネルディスカッション」 (村田純一, 芳賀 徹, 上田耕滋と)	『京都新聞』 (pp. 14-15)	2004・9・24
199	「二十一世紀の花鳥風月—京都からの提言—第二回鳥の世界から」(長谷川 博, 遠藤 彰と鼎談, 編集)	『創造する市民』81, 京都市生涯学習振興財団 (pp. 10-17)	2004・10
200	「社長対談 私はおけいはんファンです—節用集からおけいはんまで」(佐藤茂雄と)	『京阪』No. 503, 京阪電気鉄道株式会社 (pp. 4-7)	2004・10
201	「文明の中のいのちのかたち」 「文明化をもたらす言語をもとめて」	『人文科学研究のフロンティア 京都大学人文科学研究所要覧 2004 年』 京都大学人文科学研究所 (pp. 56-57, 150-151)	2004・11
202	「京都ブランド創生の新時代」 (村田純一, 芳賀 徹, 上田耕滋と共編)	『京都商工会議所会報』 No. 660 (pp. 12-14)	2004・11
203	「世界遺産と時」「世界遺産と月」「世界遺産と空」 「世界遺産と水」「世界遺産と道」	『煌めきのガラス絵 木田安彦の世界』(松下電工 2001 [—2005] 年カレンダー・木田安彦ガラス絵の世界／横山俊夫による各年用前文と解説 再録) 松下電工汐留ミュージアム (pp. 253-272 の内, 計 14pp.)	2004・11
204	「地球環境学堂「はんなり京都嶋臺塾」を伝統の町家で開催」	『文教ニュース』 第 1809 号	2004・12・13
205	「アジアにおける食の安全」(西渕光昭報告をうけ, 松林公蔵, 山極寿一, 山田 勇と討論)	『科学』Vol. 75, No. 1 (pp. 78-97)	2005・1
206	「歴史都市・京都の創生をめざして」 (京都創生百人委員会共同寄稿)	京都創生・百人委員会事務局 (一紙四折)	2005・3
207	『アメリカ—その光と影』 (第 22 回 '04 比叡会議報告書／共同企画, 共編)	日本アイ・ビー・エム株式会社 (138pp.)	2005・5
208	「自然観と世界観—モンゴルの食にまつわる儀礼から知るもう 1 つの科学」(小長谷有紀の報告をうけ, 松林公蔵, 山極寿一, 山田 勇と討論)	『科学』Vol. 75, No. 5 (pp. 660-672)	2005・5
209	「『久米島西銘誌』を読んで」	『久米島西銘誌発刊記念誌』久米島西銘誌編集委員会 (p. 21)	2005・6
210	「あやをなす作法—京ことばと文明」	『交響する身体—ひと・もの・自然を考える』 (京都大学シニアキャンパス 2005 講義用冊子), 京都大学 (p. 13)	2005・9
211	'Fostering a Renaissance in Kyoto'	Raku-Yu, Kyoto University Newsletter, No. 9 (pp. 6-7)	2006・3
212	「開会挨拶」	『2005 年度京都大学大学院教育学研究科国際シンポジウム事業報告書』, 京都大学教育学研究科 (pp. 30-32)	2006・3

- 213 『豊かさの再検討』
(第23回'05比叡会議報告書／共同企画, 共編) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (134pp.) 2006・5
- 214 「京都大学国際交流推進機構／The Organization for the Promotion of International Relations, Kyoto University」(共編, 組織紹介) 京都大学国際交流推進機構 (一紙三折) 2006・7
- 215 「開会挨拶」 『日英高等教育に関する協力プログラム 京都フォーラム2006』
同プログラム日本側推進委員会事務局 (大学評価・学位授与機構内) (pp. 9-10, 134) 2006・9
- 216 須田国太郎作「学徒出陣図」
(京都大学迎賓室設置用解説, 和英両文, 西山 伸, グレース・スダと共編／一紙) 京都大学国際交流推進機構 2006・10
- 217 「文(あや)をなして明るい未来可能な地球環境学を」
(日高敏隆と対談) 『Humanity & Nature Newsletter』No. 4
総合地球環境学研究所 (pp. 2-3) 2006・10・1
- 218 「第8回京都大学国際シンポジウム「地球社会の調和ある共存に向けて」をバンコックで開催」 『京大広報』No. 619,
京都大学 (p. 2290) 2007・1
- 219 「有識者に対するヒアリング」
(加藤三郎, 藤村コノエ, 小林節子, ハリ・スリニバスによる横山俊夫へのインタビュー) 『持続可能な社会形成に役立つ日本の伝統的知恵の発掘とその国際貢献のための研究第一次報告書』(改訂版),
NPO 法人 現代文明 21 (pp. 164-168) 2007・3
- 220 「稲垣 博先生に捧げる言葉」 『京都「国際学生の家」イヤーブック/Haus der Begegnung, Kyoto Year Book 2006』Vol. 31, 財団法人京都「国際学生の家」(pp. 4-6) 2007・3
- 221 'Enhancing Kyoto University's Language- and Culture-Conscious Collaborations with Southeast Asian Institutions of Science and Technology' *Proceedings — Workshop: "International Collaboration for the Formation and Development of Science and Technology Community in Southeast Asia, 12-14 February 2007, Rembrands Hotel, Bangkok organized by JSPS," JSPS Bangkok Office* (pp. 257-282) 2007・3
- (Kyoto University OPIR Website 搭載 pp. 27-32, 2008・4 日本学術振興会バンコック事務所出版の同名報告書/vi + 379pp. に再掲) 2007・4

222	‘Opening Remarks’	<i>The 2nd University Administrators Workshop: Innovating Universities through Internationalization, Kyoto 1-2 February 2007, Kyoto University</i> / 京都大学国際交流課, (pp. 7-9)	2007・3
223	「京都大学国際戦略本部強化事業評価報告書」(京都大学国際部と共編, 文部科学省同事業中間評価用)	京都大学国際交流推進機構 (CD-ROM版, 本文30pp, 資料66点/157MB)	2007・4
224	『旅』(第24回'06比叡会議報告書, 共同企画, 共編)	日本アイ・ビー・エム株式会社 (102pp)	2007・5
225	‘Closing Remarks for the Special Lecture of Dr. Lester R. Brown and the Panel Discussion at the Clock Tower Centennial Hall, Kyoto University,’ 22 May.	Kyoto University OPIR Website	2007・5
226	「しつけと笑い—前近代日本文明考」	『日本18世紀学会年報』第22号, 日本18世紀学会 (pp. 9-10)	2007・6
227	「歴史における異文化交流と女性／第5回19世紀西欧の日本女性イメージ」[2007年度ゼミナール通信 No. 6] (講演受講者用冊子, 講演への質問と回答)	京都橘大学エクステンションセンター	2007・7
228	「フィールドワークの伝統に立った地球社会の共存を目指して—森川里海連関学(ベネッセコーポレーション)分野の取り組み」(嘉門雅史と対談)	『BERD』No. 09 (pp. 42-43)	2007・7
229	‘Address for the Opening Ceremony of the 10 th Kyoto University International Symposium: Active Geosphere Science, Bandung, 26 July’	Kyoto University OPIR Website (pp. 1-2)	2007・8・9
230	「現代科学技術に求められる洗練とは何か」	『グローバルネット』201号(特集/人間の安全保障を考える～京都大学国際シンポジウム 人間の安全保障のための地球環境学より)財団法人地球/人間環境フォーラム (pp. 8-10)	2007・8
231	『京都大学大学院 地球環境学堂 地球環境学舎 三才学林 自己点検・自己評価書/平成14年4月—平成19年3月』(共同作成)	京都大学地球環境学堂 (149pp.)	2007・9
232	「京都大学／Outline of Kyoto University」(和英版大学紹介, 英文 Ainslie Kerr と共編)	第五回日中学長会議事務局(東京大学) (4pp.)	2007・11
233	「京都提言 2007 / Kyoto Proposals 2007」(京都文化会議企画委員会起草, 英文 Peter Kornicki, Tracey Gannon, 横山ほか共訳)	京都文化会議組織委員会 (2pp.)	2007・12・9

- 234 'A 10-year project of on-line distance education in multi-languages, Kyoto University' (co-edited with M. Minoh, Y. Nakamura and A. Kerr) *Proceedings of the 8th APRU Distance Learning & the Internet Conference : Sustainable Learning in a Global Information Society, Chulalongkorn University, 12-15 December 2007, Chulalongkorn University* (pp. 256-259) 2007・12
- 235 「老いて楽しみを増す―貝原益軒『楽訓』から」 『まなびすと』2008. 冬 Vol.4 (京都アスニー・京都大学人文科学研究所共催「養生の東西」第二話記録／正誤表を付し刊行), 京都市生涯学習総合センター (pp. 15-17) 2008・1
- 236 'The Organization for the Promotion of International Relations, Kyoto University' (英文組織紹介, Ainslie Kerr と共編) (一紙三折) 京都大学国際交流推進機構 2008・1
- 237 「挨拶」 『会誌』55号, 財団法人竹中育英会 (pp. 29-31) 2008・2
- 238 'Opening Remarks' (The Third University Administrators Workshop: Laying Firm Foundations for University Internationalization, January 24-25, 2008 Kyoto) Kyoto University OPIR Website, pp. 1-3 2008・2・5
(同名報告書に再掲 pp. 7-9) 2008・3
- 239 「芸術はいま, 何を伝えるか 佐川美術館 楽吉左衛門館開館記念フォーラム／現代(いま)の精神(こころ)を語る」(楽吉左衛門と対談) 『京都新聞』(pp. 16-17) 2008・2・27
- 240 『今ふたたび, 情報を考える』 (第25回'07比叡会議報告書, 趣意書執筆, 共編) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (103pp.) 2008・4
- 241 'Civilising the Usage of the Word *Civilisation*,' & 'Civility in a Polytheistic Environment: a Perspective from the Japanese Experience' — Two Abstracts from the 21st European Conference: 'Asia encounters the Occident? Dialogue of the Future, Prague, 6-9 March, 2008' Hebrew University of Jerusalem European Office, Paris, Website: www.european-conference.info; also on the Kyoto University OPIR Website: www.opir.kyoto-u.ac.jp (2pp.) 2008・4
- 242 「イギリス体験と日本―文化交流の個人史から」(萩原延壽談, 横山俊夫聴き手／1997・7・24収録, 横山編集のものを再録, 前掲129) 『萩原延壽集7 精神の共和国』, 朝日新聞出版 (pp. 321-356) 2008・5
- 243 「京都大学の事例紹介」 (分科会「国際的な大学間連携及びコンソーシアムの活用」における講演スライド, 討論) 『大学の国際戦略―課題と展望―』(文部科学省大学国際戦略本部強化事業平成19年度公開シンポジウム報告書) (pp. 94-126, 212-215) 2008・6
- 244 「東アジア研究型大学協会(AEARU)第22回理事会の開催」(共編) 『京大広報』No. 636 (p. 2673) 2008・7

- 245 'Opening Remarks for the Workshop' at APRU World Institute Climate Change Mitigation and Adaptation Strategies (AWI CMAS) 3rd Planning Meeting, Danang: 'Integrated Water Resources Management and Impacts of Climate Change' Kyoto University OPIR Website 2008・9
- 246 *Research Institute for Humanity and Nature (RIHN) Report of the 8th Evaluation Committee for Research Projects* (研究プロジェクト評価委員会共同作成) 総合地球環境学研究所 (325pp.) 2008・9
- 247 'Addendum' (木材市場国際化と松枯れ線虫拡散につき寸評) B. G. Zhao, K. Futai, J. R. Sutherland, and Y. Takeuchi, eds., *Pine Wilt Disease*. Tokyo, Berlin, Heidelberg, and New York: Springer (pp. 383-384) 2008・10
- 248 'Kyoto University' (in the article titled, 'World beaters: but what makes these universities special?') *Times Higher Education* (p. 7) 2008・10・7
- 249 『京都市国際化推進プラン』 (策定委員会座長として討論, 共編) 京都市総務局国際化推進室 (pp. 1-83) 2008・12
- 250 'G8 University Summit Sapporo Sustainability Declaration (SSD),' (jointly-composed) *Report of the G8 University Summit, June 29-July 1, 2008 Sapporo* (hosted by Hokkaido University) (pp. 22-25) 2009・2
- 251 'Opening Remarks' *The 4th University Administrators Workshop — Building International Partnership: In quest of a more creative exchange of students, 12-13 February, 2009, Kyoto University*. 京都大学国際交流課 (pp. 7-11) 2009・3
- 252 'What is the University Administrators Workshop?' read at the Aloud Forum of the APRU Senior Staff Meeting, University of Melbourne, 20 March 第45回京都大学国際交流推進機構運営委員会席上配布 (3pp.) 2009・3
- 253 'Pacific Rim Cities: Climate Change Mitigation and Adaptation Strategies,' co-edited with Rajib Shaw *Proceedings of 2nd GSGES Global COE Workshop, January 18, 2009*. ed. Shigeo Fujii, Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University (pp. 1-9) 2009・3
- 254 'Our Long Way to Go: a welcome speech' 竹沢泰子編『第12回 京都大学国際シンポジウム (KUIS-12) 報告書 「変化する人種イメージ—表象から考える」』京都大学国際交流推進機構 (pp. 17-18) 2009・3

- 255 'Raising Afresh the Eternal Question: a few remarks at the end of KUIS-11' *The 11th Kyoto University International Symposium (KUIS-11): Frontier Bioscience in Modern Medicine —Report, Shanghai, China, Oct. 9-11, 2008, Kyoto University OPIR* (pp. 37-38) 2009・3
- 256 「忘れものに気づいて戻った旅」 『ひととき』(株式会社ウエッジ) 9巻4号 (4月, pp. 46-47) 2009・4
- 257 『文と武』 (共編, 第26回'08比叡会議報告書) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (78pp.) 2009・4
- 258 「京都の学風」 『京都大学人文科学研究所創立80周年』(所報『人文』特別号)(p. 17) 2009・11
- 259 'Editorial' (by Richard Smith, reproducing Toshio Yokoyama's address at Kyoto University Centennial Hall on 9 August 2008) *Ethics and Education*, Vo. 4, No. 2, October 2009. (pp. 103-104) 2009・11
- 260 *Report of the 9th Project Evaluation Committee* (研究プロジェクト評価委員会共同作成) Research Institute for Humanity and Nature (総合地球環境学研究所) (337pp.) 2010・1
- 261 「仲立つことのひろがり」 『木田安彦の世界「富士百観とふるさとの名山」展』思文閣美術館 (pp. 6-7) 2010・4
- 262 『生まれと育ち』 (第27回'09比叡会議報告書/共同企画, 共編) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (82pp.) 2010・4
- 263 *The 10th Project Evaluation Committee Meeting 2010* (研究プロジェクト評価委員会共同作成) Research Institute for Humanity and Nature (総合地球環境学研究所) (CD版) 2010・4
- 264 「老いを楽しむ」①(企画編集, リード執筆)「フォーラム 新・地球学の世紀 29 深澤一幸, 中国古典にみる老いの過ごし方 — その変遷をたどる」 『WEDGE』第22巻第12号 (pp. 60-61) 2010・12
- 265 「老いを楽しむ」②(企画編集, リード執筆)「フォーラム 新・地球学の世紀 30 山極寿一, 老いの進化を考える—霊長類学から」 『WEDGE』第23巻第1号 (pp. 52-53) 2011・1
- 266 「老いを楽しむ」③(企画編集, リード執筆)「フォーラム 新・地球学の世紀 31 松林公蔵, “豊かな老い”を訪ねて—フィールド医学の現場から」 『WEDGE』第23巻第2号 (pp. 52-53) 2011・2
- 267 「老いを楽しむ」京都特別会, (企画編集, リード執筆)「フォーラム 新・地球学の世紀 やなぎみわ, 老いを描く 老いを演じる—翁と嬢にみる老人観」 『WEDGE』第23巻第3号 (pp. 68-69) 2011・3

- 268 「三才学林 Sansai Gakurin/ Grove of Universal Learning」(共同執筆) 『京都大学大学院 地球環境学・地球環境学舎・三才学林 ガイドブック 2011 Graduate School of Global Environmental Studies, Kyoto University』(pp. 38-39) 2011・3
- 269 'Linguistic Analyses of *Shikidō* Guides — from the perspective of premodern Japanese civilization' *Zinbun*, No. 42 (p. 193) 2011・3
- 270 「色道書の言語をめぐる文明的的研究」 『京都大学人文科学研究所要覧 2010 人文科学研究のフロンティア』京都大学人文科学研究所 (p. 27) 2011・3
- 271 「老いを楽しむ」④(企画編集, リードならびに本文執筆)「フォーラム 新・地球学の世紀 32 達老志願者への手引き—前近代の日本から, 文明論風に」 『WEDGE』 第 23 巻第 4 号 (pp. 70-71) 2011・4
- 272 『21 世紀に求められる文明とは何か その 1 / 部分と全体』(第 28 回 '10 年比較会議報告書/共同企画, 共編) 日本アイ・ビー・エム株式会社 (76pp.) 2011・4
- 273 'Memories of Dr Carmen Blacker OBE, FBA (1924-2009)' *Sansai*, No. 5 (pp. 131-133) 2011・4
- 274 *Report of the 11th Project Evaluation Committee* (研究プロジェクト評価委員会共同作成) Research Institute for Humanity and Nature (総合地球環境学研究所) (CD 版 340pp.) 2011・4
- 275 「梅棹文明学の来た道」(やなぎみわ, 山極寿一と鼎談, 河野通和と共同企画, 編集) 『考える人』2011 年夏号, 新潮社 (pp. 58-69) 2011・7

I 監修・英文校閲

- 1 'Wasen,' 'Cha no Yu,' 'Lacquer Ware,' 'Washi,' 'Five-Story Pagoda,' 'Kodo,' 'Carpenter's Tools' (以上, 'Originality' シリーズ); 'Juvenile Culture,' 'Sumo,' 'Kaiseki ryori,' 'Mizuhiki,' 'Engi-mono,' 'Rakugo,' 'Noodles,' 'Furoshiki,' 'Green Tea' (以上, 'Things Japanese' シリーズ); 'Musical Instruments,' 'Karuta,' 'Bonsai,' 'Bamboo Craftsmanship,' 'Confectionery,' 'Sake,' 'Origami,' 'Uchiwa and Ohgi,' 'Maki-e,' 'Kites,' 'Paper and Ink,' 'Fireworks,' 'Wooden Architecture,' 'Bath,' 'Pickles,' 'Shogi,' 'Kendo,' 'Spinning Tops,' 'Haiku,' 'Cutlery,' 'Shoji and Fusuma' (以上, 'Culture of Japan' シリーズ) *Sumitomo Quarterly*, No. 50-No. 86. 1992・10～2001・10